

# バングラデシュはいま(上)

バングラデシュは1971年にパキスタンから独立した新しい国である。インドの東側に位置し南アジアに属する。ガンジス川など河川の堆積によって出来たデルタ地帯だけに海拔は平均10メートルに低地にある。NGOアムタ(AMDA)がこの国の保健医療の支援と災害救援を目指して首都ダッカに駐在事務所を置いたのが2002年。「洪水、貧困、人口密度世界一」などとかく暗いイメージばかりが先行しがちなこの国は、いまどう変わり、どこに向かおうとしているのか。以下は私が見たバングラデシュの8日間、フィルタールを通さないありのままのレポートである。

## 時論

元岡山県議会議員

日南 香



すぐに気が付いた。上海浦東空港などに見られる国際色豊かで派手な風景がそこにはない。ターミナルをせわしく行き交う人々の多くは国際協力や援助プロジェクトの民間関係者なのか、あるいは進出企業の関係者なのだろうか。地味でかたい服装からそう見えた。

しており、農村から職を求めてダッカに集まる人々は後を絶たず首都の人口はいまも膨張を続けている。

今回の訪問の主な目的はこの国の貧しい人々への医療サービスと教育の充実について国がどのように取り組み、こ

れらにアムタがどうかかわっているのかを知ることであった。とりわけ貧困と闘い自然災害に脅かされ続けながら過酷な環境の中で生きるバングラデシュの人たちにとっては保険医療の充実が急務の課題であり私も大きな関心を寄せていた。

アムタバングラデシュの本拠地はダッカにあり、ガザリア、カジブルに支部を持ち、スタッフは総勢29人と発展を続け

全員が現地人である。年齢も平均では30代前半と若く仕事に対する意欲と使命感、団結力は絶大で、それは総責任者アフタル・ラザック氏の国を思う強烈な個性とリーダーシップに負うところが大きくアムタジャパンも範として見習うべきところは少なくないだろう。

モノが貧しく心豊かな国

生徒数415人のバラック建ての学校を訪問した時のことである。大勢の生徒たちがアムタ玉野支部代表の竹谷和子さんを取り囲み、喜びを爆発させ大歓声で迎えた。この

る自然の豊かな恵みをもたらしているのも事実だ。ホテイアオイが繁茂する川を小さな手こぎのボートで揺られ、テンガチャー村で住民との交流の場を持つ機会があった。人々は純真で目の輝きは美しく、身なりは貧しくとも、心がこの上なく豊かであり日本人がいつの間にか失ってしまった貴重な何かを見つけて出す思いがして感慨ひとしおであった。

た。学校運営でいちばんの難題は、との私の問い掛けに「子供に教育を受けさせるための親の理解と説得です」との校

長先生の切実な訴えが今も鮮烈に脳裏をかすめる。家族にとって子供は今も米と魚を獲るための大切な労働力になっているのである。

## 教育と労働のはざままで

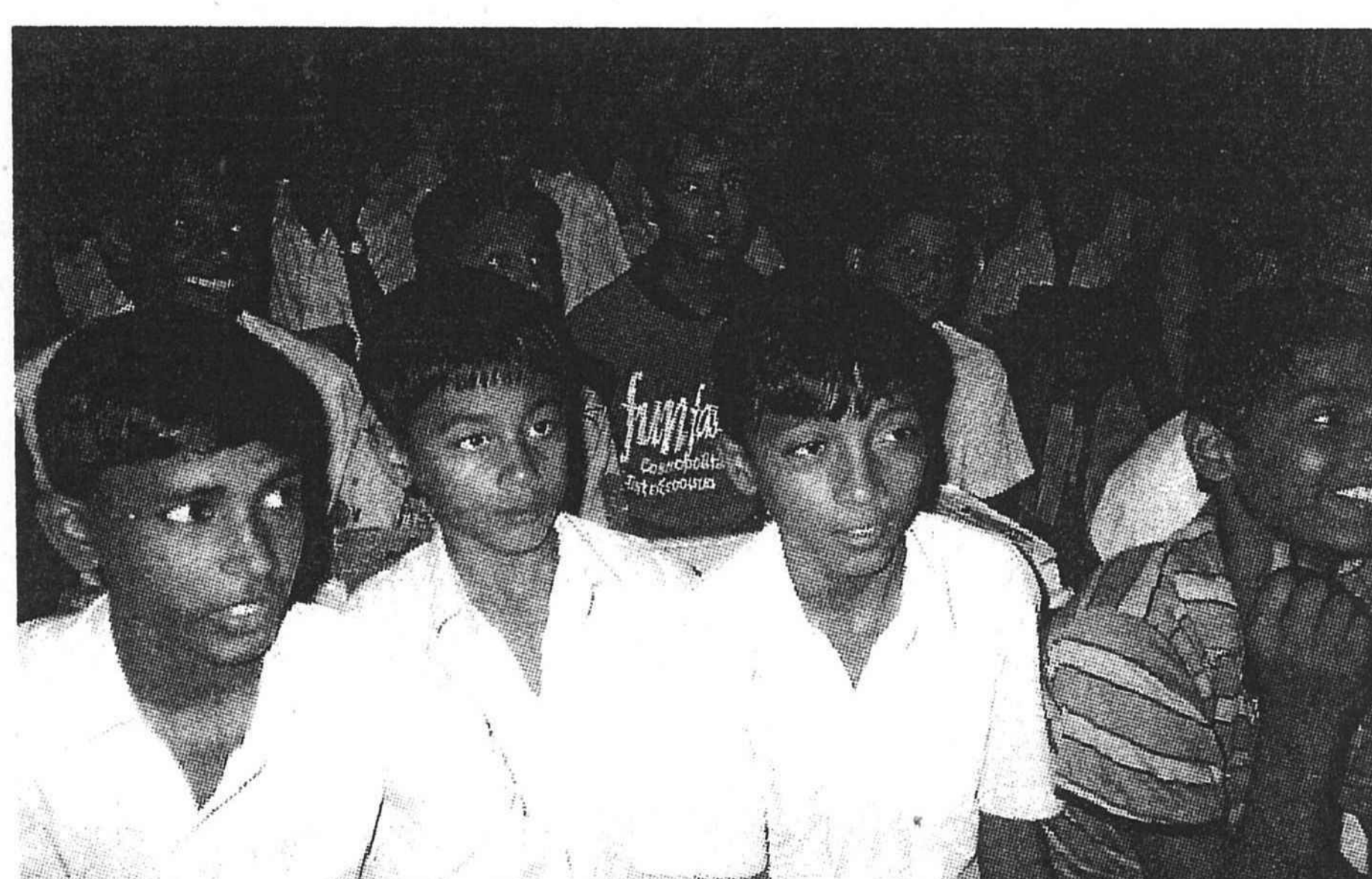
過酷な環境と過剰人口  
ダッカ国際空港に降り立ち

日本の半分にも届かない小さな国だが、そこに1億4千万人余がひしめき合っている

アムタが現地人である。年齢も平均では30代前半と若く仕事に対する意欲と使命感、団結力は絶大で、それは総責任者アフタル・ラザック氏の国を思う強烈な個性とリーダーシップに負うところが大きくアムタジャパンも範として見習うべきところは少なくないだろう。

モノが貧しく心豊かな国

生徒数415人のバラック建ての学校を訪問した時のことである。大勢の生徒たちがアムタ玉野支部代表の竹谷和子さんを取り囲み、喜びを爆発させ大歓声で迎えた。この



ガザリアのバラック建ての学校で。貧しい環境にあっても生徒たちの目は輝いていた